

東北海区沿岸水温予報(2024年)

海域	経過 (9～11月)	現況(11月上旬～ 12月上旬)	見通し (12月～2月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	<p>・定地水温:9月から10月上旬までは高め～やや高め、10月中下旬は平年並みからやや高め、11月は平年並み～やや低めで推移した。</p> <p>・津軽暖流の各層水温は0m層、50m層でかなり高め、100m層でやや高め、水塊深度は極めて浅め、津軽暖流の東方への張り出しはやや弱めであった。</p>	<p>・定地水温:11月は平年並み～やや低めで推移した。12月上旬は平年並みであった。</p> <p>・12月の海洋観測の結果、津軽暖流の各層水温は各層とも平年並み、水塊深度は平年並み、津軽暖流の東方への張り出しは平年並みであった。</p>	<p>・津軽暖流域の水温は平年並～やや高めで推移する。</p>	<p>・日本海の12月分観測の結果、対馬暖流域の0m層、50m層、100m層の各層で最高水温は平年並みであった。</p> <p>・FRA-ROMS IIによると、津軽暖流域は平年並みからやや高めで推移すると予測されている。</p>	特になし
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	<p>9月: 《表面水温》 10海里以内は22～23℃台であり、全定線で「やや高い」となった。 20～50海里は21～23℃台であり、黒埼定線の20～30海里、トドヶ埼定線及び尾埼定線の20海里で「やや高い」、その他の定点では「平年並」となった。 《100m深水温》 10海里以内は8～15℃台であり、樺島定線5海里及び黒埼定線で「平年並」、その他の定点で「やや高い」～「極めて高い」となった。 20～50海里は7～15℃台であり、黒埼定線20～40海里、トドヶ埼定線40～50海里及び尾埼定線50海里で「平年並」、その他の定点で「やや高い」～「極めて高い」となった。</p> <p>10月: 《表面水温》 10海里以内は19～21℃台であり、黒埼定線0海里、トドヶ埼定線0海里及び尾埼定線10海里で「平年並」、樺島定線0海里で「高い」、その他の定点で「やや高い」となった。 20海里は20～21℃台であり、全定線で「やや高い」となった。 各定線30～50海里は時化のため欠測となった。 《100m深水温》 10海里以内は10～15℃台であり、トドヶ埼定線5海里及び黒埼定線で「平年並」、樺島定線5海里で「低い」、尾埼定線10海里で「やや低い」、その他の定点で「やや高い」となった。 20海里は10～16℃台であり、黒埼定線及び尾埼定線で「平年並」、トドヶ埼定線で「やや高い」、樺島定線で「高い」となった。 各定線の30～50海里は時化のため欠測となった。</p> <p>11月: 《表面水温》 10海里以内は14～19℃台であり、黒埼定線10海里で「やや低い」、樺島定線0海里で「高い」、その他の定点で「平年並」～「やや高い」となった。 20～30海里は15～19℃台であり、黒埼定線及び樺島定線で「平年並」、トドヶ埼定線で「やや高い」、尾埼定線で「高い」となった。 各定線の40～50海里は時化のため欠測となった。 《100m深水温》 10海里以内は11～17℃台であり、黒埼定線10海里及び尾埼定線10海里で「やや低い」、黒埼定線5海里及び尾埼定線5海里で「平年並」、トドヶ埼定線5海里で「高い」、その他の定点で「やや高い」となった。 20～30海里は5～13℃台であり、黒埼定線30海里で「やや低い」、トドヶ埼定線30海里で「高い」、その他の定点で「平年並」～「やや高い」となった。 各定線の40～50海里は時化のため欠測となった。</p>	<p>12月:時化等により尾埼定線0～10海里定点以外は欠測となった。 《表面水温》 尾埼定線0～10海里では、15～18℃台であり、平年より1～4℃高めでであった。 《100m深水温》 尾埼定線5～10海里では、14℃台であり、平年並であった。  尾埼定線10海里以内には、5℃以下の水温帯は分布していなかった。</p>	<p>1～2月 11月及び12月定線観測において、欠測が多く、今後の見通しが予測できなかった。 ただし、現況の海況図から、黒潮統流の北上傾向が継続すると考えられ、県南部においては、平年より水温が高いと予想される。</p>	<p>気象庁海面予想図(令和7年1月3日予想図)による。</p>	<p>・津軽暖流が主因と思われる急潮が度々観測されたことから、9月から11月末までの間、7回急潮情報を発行し、定置網や養殖施設に被害が出ないよう漁業者に注意喚起した。</p> <p>・10月31日に宮古・大船渡魚市場での定置網によるサンマの水揚げ以降、11月30日までに県内の定置網で21.1トンの水揚げとなっている。特に11/29に大船渡魚市場で15.1トンの水揚げがあった。</p> <p>・9～11月の定置網におけるキハダマグロの水揚量は25.4トンと前年同期の約2倍となった。(R5年度の9～11月のキハダマグロの定置網による水揚量12.6トン)</p>

<p>三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)</p>	<p>【9月】 表面水温は平年より0～2℃高めの24℃程度。 100m深は県北部で平年より1～5℃高めの14～15℃。県南部は平年並の10～13℃。 【10月】 表面水温は22～23℃、100m深は14～16℃。 【11月】 表面水温は平年より3～4℃高く20℃以上であった。 100m深は、16℃程度で前月と同程度であった。</p>	<p>表面水温は18℃程度で黒潮続流が沖合へ遠ざかったことから11月中旬より2℃程度低下した。 100m深水温は16℃程度で10月以降高い状態が続いている。</p>	<p>表面及び100m深水温とも、黒潮続流の影響を受け高め～やや高めで推移する。</p>	<p>FRA-ROMS II、気象庁海面水温・海流1か月予報等による。</p>	<p>本県沿岸にカツオ一本釣り漁場が形成された。</p>
<p>常磐北部 (福島県沿岸; 福島水海セ発表)</p>	<p>100m深水温 【9月】 北部海域は「平年並み」 中部海域は「平年並み」 南部海域は「平年並み」 黒潮続流(200m深14℃以上)は確認されなかった。 なお、9月の海洋観測は距岸30海里以内の定点のみ。 【10月】 北部海域は「高い」 中部海域は「極めて高い」 南部海域は「高い」 黒潮続流は塩屋埼定線(南部海域)の距岸50海里、富岡定線(中部海域)の距岸50海里、鵜ノ尾埼定線(北部海域)の距岸60海里に確認された。 【11月】 北部海域は欠測 中部海域は欠測 南部海域は「高い」 黒潮続流は塩屋埼定線(南部海域)の距岸50海里に確認された。  ※ 北部:37° 50'N 中部:37° 25'N 南部:37° 00'N</p>	<p>100m深水温 【12月】 北部海域は「やや高い」 中部海域は「高い」 南部海域は「高い」 黒潮続流は塩屋埼定線の50海里、富岡定線の距岸60海里、鵜ノ尾埼定線の距岸60海里に確認された。</p>	<p>【12月】 「高い」～「極めて高い」 【1月】 「やや高い」～「高い」 【2月】 「平年並み」～「やや高い」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FRA-ROMS IIの予測によると、12月の福島県海域142° 00' E以西における100m深水温は、平年差+1℃～+4℃の領域が大半を占めており、「高い」～「極めて高い」に相当している。</li> <li>FRA-ROMS IIによると1月の100m深水温予測において、黒潮系暖水が波及していることから、水温の高い状態が継続すると考えられる。2月上旬の予測では親潮系冷水が本県海域波及するとみられることから、平年並みとなると考えられるが、黒潮続流の北上が継続した場合は高め基調で推移すると考えられる。</li> <li>気象庁の「海面水温・海流1か月予報」(令和6年11月29日発表、対象期間11月30日～12月31日)によると、本州東方の海面水温は「平年よりかなり高い」とされている。</li> </ul>	<p>2024年7月～12月の期間中、9月の100m深における水温は平年並みであったが、それ以外の月では平年差が+3.1℃以上であり、高め基調を継続している。(平年値:1991年1月～2022年12月における100m深の水温平均値)</p>
<p>常磐南部～鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)</p>	<p>【9月】平年と比較すると、0m深では全域で平年並～やや高め、50m以深では、黒潮の流路となっている犬吠埼沖141° 15' E付近から鹿島沖141° 45' E付近でやや高め～高め、それよりも沿岸域では黒潮からの逆流の影響により平年並～やや高めとなった。 【10月】平年と比較すると、0m深では全域でやや高め～高め、50m深では黒潮逆流による暖水波及の影響で、全域でやや高め～極めて高め、100m以深では黒潮の流路となっている141° 30' E付近以東で高め～極めて高めとなった。 【11月】平年と比較すると、0～50m深では全域でやや高め～高め、100m以深では142° E付近ではやや高め、他で平年並となった。</p>	<p>平年と比較すると、0～50m深では全域でやや高め～高め、100m以深では、黒潮の流路となっている142° E付近では高め～極めて高め、141° 30' E付近以西では平年並～やや高めとなった。</p>	<p>黒潮北偏と暖水波及の影響により、黒潮本流が流れる142° E付近では全層で「高め～極めて高め」(本県東方沖の冷水塊が接岸した場合には「平年並～やや低め」)、142° E付近より西側では全層で「やや高め～高め」で推移する見込み。</p>	<p>海洋観測結果、気象庁「海洋の健康診断表」、FRA-ROMS IIによる。</p>	

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸20～50海里			
極めて高い(2.5%)	+3.3℃～	+3.8℃～	+6.1℃～	+5.8℃～	+4.9℃～	+6.1℃～
高い(7.5%)	+2.2～+3.2℃	+2.4～+3.7℃	+3.9～+6.0℃	+3.8～+5.7℃	+3.2～+4.8℃	+4.0～+6.0℃
やや高い(20%)	+0.9～+2.1℃	+1.0～+2.3℃	+1.6～+3.8℃	+1.5～+3.7℃	+1.3～+3.1℃	+1.6～+3.9℃
平年並(40%)	+0.8～-0.8℃	+0.9～-0.9℃	+1.5～-1.5℃	+1.4～-1.4℃	+1.2～-1.2℃	+1.5～-1.5℃
やや低い(20%)	-0.9～-2.1℃	-1.0～-2.3℃	-1.6～-3.8℃	-1.5～-3.7℃	-1.3～-3.1℃	-1.6～-3.9℃
低い(7.5%)	-2.2～-3.2℃	-2.4～-3.7℃	-3.9～-6.0℃	-3.8～-5.7℃	-3.2～-4.8℃	-4.0～-6.0℃
極めて低い(2.5%)	-3.3℃～	-3.8℃～	-6.1℃～	-5.8℃～	-4.9℃～	-6.1℃～

1991年1月～2020年12月の100m深度の観測水温を基に階級区分している